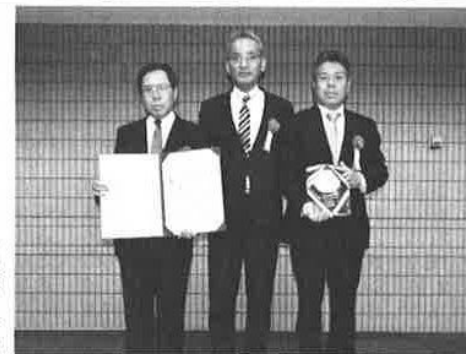


2018年5月22日付
日刊産業新聞

鋼構造研究小委が 中国建築文化賞

建築学会中国支部

【広島】広島県鉄構工業会青年部のファブリケーターが多数参加している「日本建築学会中国支部鋼構造研究小委員会」とその下部組織「は18日、日本建築学会中国支部の中国建築文化賞を受賞した。中国地区で産官学が連携をしてシンポジウムや講演・見学会、公開実験の実施、鋼構造物に利用される高力ボルトのレーザー穴に関する研究開発を行ってきたことが評価された。下部組織は構造設計者、鉄骨製作に従事する中国地区の技術者などで作られている。研究成果が、鉄骨造の施工方法に関する標準的な要領書である「JASS6」改訂版に正式記載された。レーザーによる穴の加工技術は広島工業大学工学部建築工学科の清水斉教授や広島県鉄構工業会を中心とする鉄骨製作部会がまとめた実験結果が大きく貢献し、ファブリケーターの技術力



左から近松専務、清水教授、永谷社長

が認められた形となった。従来はドリルで加工してきた高力ボルトの穴を、レーザーで加工することができるので手間が大きく軽減する。

中国建築文化賞は中国地方の建築文化発展に大きく貢献をした活

動を表彰する制度。今回は「中国地方における鋼構造に関する技術の普及、研究・情報公開活動」が認められた。18日に広島市内で行われた受賞式には清水教授、広島県鉄構工業会で技術委員長を務める永谷仁成・永谷鉄工社長、近松英樹・カナイ建築構造事務所専務取締役が参加した。表彰式後、清水教授が記念講演会で活動内容の説明を行った。